

主任コラム1月号

主任 澤井 良子

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。
今年度も残すところ3か月となりました。この3か月の中には、進級に向けた移行の時期でもあります。子ども達、私たち職員にとっても大切な時間となるよう、1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

先月のことです。給食の際に使う雑巾が、牛乳などを拭いていて匂ってしまうことがありました。そのことに気付いた保育士と年長児が、匂いがとれるよう石鹼を使って丁寧に洗ってくれました。そして、年長だけの時間に、「みんなに伝えたい」と女の子2人が話してくれました。「先生に言ったら、石鹼をだしてくれました。これから雑巾を洗う時はこれを使つたらいいと思う。」と提案をしてくれました。

別の日には、ある男の子が「僕、今日はお手伝い保育行きたくない」と、気持ちを打ち明けてくれました。私は思いを聞き『今日はこくら組で遊びたいんだね。でも、その気持ちは自分で先生に伝えてみようね』と伝えました。その子は、お手伝い保育先の保育士にも理由を伝え、自分のクラスでも理由を自分の口から伝えました。保育士達は、その男の子の気持ちを受け止め、午後の時間に年長児だけで話し合いをしたそうです。「お手伝い保育についてどう感じているか」を年長児に問いかけると、「遊びたい気持ちが強くなることがある」「小さい子との関わりに迷うことがある」という声が聞かれたそうです。

私は、その様子を先生達から聞き、子ども達が自分から気づいたことを共有できしたこと、自分の気持ちを大人に聞いてもらえたこと、そして、関わる職員みんなで一人の子の思いを大切にできたことが、とても良い姿だと感じました。

大人でも、意見や思いが違う場面を経験したことがあると思います。強い意見に押されるのではなく、相手の思いを聞き、自分の思いとどう折り合いをつけていくかを考えることは、とても大切な力です。これからも子どもが困った時には「どうしたの?」と気持ちに寄り添い、「どうしたい?」と考える時間を大切にしながら、自分で考え、選び、決めていけるような関わりを続けていきたいと思います。

2月の生活発表会【言葉・表現】に向けて、以上児クラスでは、自分で選択した演目に取り組み始めています。どの年齢の子も、考え、選び、表現する姿を、温かく見守っていただけたら嬉しいです。

